

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 八見 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

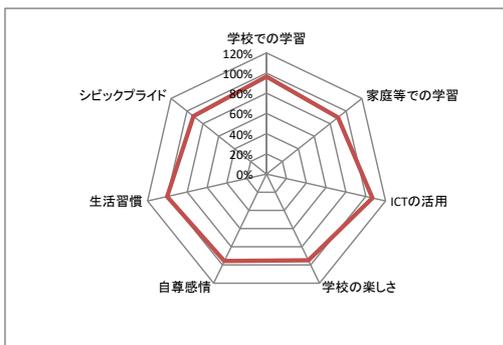
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を上回った。特に、「知識及び技能」のうち「情報の扱い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」に関する問題の正答率が高かった。一方で、記述式の問題の正答率が低く、無回答率も高い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題 必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題 話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題 	
数学	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を上回った。特に、「数と式」及び「図形」の領域の正答率が高かった。一方で、「データの活用」の領域は全国平均を下回った。「思考力、判断力、表現力」を問う問題では、すべての問題で全国平均を上回った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる問題 回転移動について理解しているかどうかをみる問題 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる問題 事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる問題 	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 学校の授業に関する質問、「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」及び「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」に対して、肯定的な回答が全国平均を上回った。一方で「課題解決に向けて自分から取り組む」などの質問が全国平均を若干下回った。生徒が自ら考え、進んで活動に取り組めるような授業を実践していく。 授業におけるICTの活用は進んでいる。今後も効果的に活用し、「わかる」授業の実践につなげていく。 普段の授業や行事等において、生徒が主体的に取り組むことができるよう工夫し、自己有用感や学校の楽しさを感じるができるようにしていく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語、数学ともに全体の正答率は全国平均を上回ったが、記述式の問題の正答率や無回答率が課題である。普段の授業において、自分で考えて「書く活動」を意図的に組み込み、考えて表現する力を育成していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 学校からの各種通信や保護者懇談会等の様々な機会を通して、生活習慣の確立や家庭学習の習慣化について発信し続けていく。
- 計画的な家庭学習の定着について、学習計画表や生活記録ノート等を通して教師がアドバイスをするなど、きめ細かい指導を継続して行う。